

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人紫雲会		
事業所名	グループホームかわたな		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397番地		
自己評価作成日	令和 元年 10 月 1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、町の中心部に位置しており、周辺にはスーパー・行政・公共機関等があり、生活環境が整っている地域である。職員は介護理念や基本理念を心得て、一人ひとりに向き合って支援することとしている。
看取りの事例も多く、最後までご本人やご家族の希望に添え、できる限りの思いを叶えられるケアをしている。又、職員の入れ替わりが殆どなく、働く環境も整っており、入居者様にとっても馴染みの顔となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホーム周辺には町役場などの公的機関や商業施設があり、衣食住に関する環境が整っているほか、駅も近いことから交通のアクセスが良く家族も面会しやすい環境となっている。ホームは離職率が低く、開設当初から勤務する職員が多く在籍し、入居者・家族との関係も良好であることから入居者の穏やかな生活や家族の安心感へと繋がっている。管理者をはじめ法人全体として日頃から職員の自己研鑽や更なる資格の取得について推奨しており、職員のほとんどが国家資格である介護福祉士を取得していることから、専門的な支援についても期待が持てる。今年10月には母体法人の理事長逝去という突然の出来事で職員にも戸惑いが生じたが、理事長の方針を受け継ぎながら立ち止まることなく次へのステップへ前向きに進んでいく姿勢が窺え、今後も入居者や家族に向けての良質な介護支援の提供に大いに期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として、職員全員が年頭に於いてサービスを提供できる様に、分りやすい理念を新たに揚げ、目に付く場所に提示している。	ホームでは基本理念をもとに『かわたな』を頭文字とした『家庭的で、笑いあふれる、楽しい、馴染みの場』を介護理念として掲げている。職員は入居者にとってホームが笑いが絶えず楽しい居場所であることを念頭に、日々支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来るだけ参加するように努めている。又、入居者が行きつけだった美容室や飲食店や商店も引き続き利用できるよう支援している。美容室に行けなくなった場合はお店の協力を得て訪問美容をお願いしている。	地域の高齢化に伴いホームと近隣住民との交流が難しくなっているが、町主催の敬老の集いや文化祭への作品出展・参加、地域神社の献灯祭など地域の行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。また、ホームの取り組みについて地域への情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者福祉を学ぶ場として、学生の実習や体験の受け入れを行っている。家族様や面会者の方へ認知症の対応など話すことをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の担当者、民生委員、家族代表者、入居者代表者を交え様々な角度から率直な意見や評価を頂いている。その情報をミーティング時に報告し、検討する等して、サービスの向上に繋げる努力をしている。	運営推進会議では参加者それぞれの立場からの意見や評価をもとに、活発な意見交換や質疑応答を行っている。それらの内容は全職員へ報告し、参加者からの意見や助言をもとに今後のホーム運営や入居者への日々の支援に反映できるよう検討している。	運営推進会議では活発な意見交換や質疑応答を行っている。今後更なるホームへの理解や運営の透明化に繋がるよう、例えば会議に参加できない家族へ向けて会議内容を開示・送付するなど、家族の安心感に繋がる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加された時や、電話したり、役場に出向いて、相談したりアドバイスを受けていたりしている。	管理者は町役場に直接赴き、介護保険制度に関する問い合わせや運営推進会議資料の依頼や不明点について尋ねるなどし、協力関係を築いている。地域包括支援センターとも連携しており、いただいた意見や助言をホーム運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の委員会で、身体拘束に繋がるケアを行っていないか等、検討する時間をとっている。又、研修に参加した職員がミーティングにて、他の職員に報告をして身体拘束をしないケアを実践している。	ホームでは身体拘束に関するマニュアル等を整備し、身体拘束は行わないことを管理者から職員へ周知している。身体拘束に関する外部研修へ参加した職員は学んだ内容を内部研修で他の職員へフィードバックし、全職員の拘束に対する理解へと繋げている。職員はこれらの知識を踏まえた上で日々の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	短期利用の方で実際、アザや暴力を振るう場面を見た事例があり、ケアマネージャーに報告したことがあった。事業所内でも定期的に虐待防止委員会を開き、実際に職員同士が見たり聞いた場面について検討しあい、虐待防止に努めている。又研修会に積極的に参加し、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、制度や実際の事例について学ぶ機会があった。当施設に於いてはまだ制度の活用を必要とするケースに当たっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要書類を準備し、丁寧で分かりやすい説明を行っている。改定等の際は、面会時などを利用して直接説明し、理解して頂き不安や疑問があれば再度説明し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、役場職員・民生委員・家族代表・入居者代表に参加して頂き、当施設の現状や課題を報告し、意見交換を行っている。	ホームでは入居者との日頃の会話や家族面会時の会話の中からホームへの意見を抽出し、運営に反映している。聞き取った意見や要望については毎日の申し送りや月1回のミーティングの際に職員へ周知している。また、年1回家族へアンケート調査を実施し、意見を汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや毎日の申し送りの際、職員の意見や提案を聞き、意見の交換や検討を行っている。	管理者と職員の間には信頼関係が構築されており、職員はホーム運営に関する意見やアイデアについていつでも進言することができ、運営に活かすことができている。管理者は職員のストレスが軽減できるよう勤務年数に応じた連続休暇によるリフレッシュ休暇について提案するとともに、特定処遇改善加算についても取得に向けて取り組んでいるところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を取り、出来る限り希望に添える様勤務表作成を行っている。家庭の状況に合せ、お互い助け合いながら働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の希望する物や不足している部分を向上させる為に一人ひとりに合った研修に参加し、能力アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を開催し、お互いの事案について意見交換や勉強会を行っている。又、講師を招いての勉強会を開催し、各施設の参加を募りお互いの知識を高め合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階で十分にご本人様やご家族様と話し合い、要望を聞いている。又、その都度、要望を聞いて安心される生活を提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフは何でも話が出来るような雰囲気作りに努め、想いを共有したり信頼関係を深める様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を見極めて適切なサービスを提供できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、安心して何でも話せるような関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と話しやすい関係を作る事で絆を深め、ご本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の担当スタッフが個別ケアを実践し、希望に添った支援に努めている。ご本人様との意思疎通が困難になっても、外出や馴染みの場に出掛けたり、人と触れ合う機会を設けている。	入居時に馴染みの場所について本人や家族へ聞き取りを行い、各入居者の担当職員を中心に個別プランを作成し、外出できるよう取り組んでいる。職員は神社や寺院、墓参りへの付き添いなど、本人が大切にしてきた馴染みの人や場との関係が疎遠にならないよう関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の中で全員が集い、声かけしスタッフが話の橋渡しになり、孤立させずに関わり合える様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了して電話を入れたり、訪問して近況をお尋ねしたり、必要に応じて相談を受け、支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成の際は必ずご本人様やご家族様の意向を伺い、伝えることが困難な方に対してはご本人様の表情等を参考に思いをくみ取りたいと思い、検討している。	職員は入居者との日頃の会話や、入居者毎の病気・健康状態・できること・わかること・得意なところ・素敵なところを全職員で記載した『その人らしさ探しシート』を用い、思いの汲み取りに努めている。思いを伝えることが困難な方については表情から推察し、職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様を始め面会に来られた方々にも以前の暮らしぶりを伺い、情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に変化がないか、食事や水分はしっかり摂れているかなど、日々観察し状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ミーティングを開き、全員でモニタリングを行っている。又、ご本人様にも不具合がないか尋ね、介護計画作成に繋がるよう実施している。	ケアプラン見直しの際、計画作成担当者は入居者毎の『その人らしさ探しシート』や日頃の記録、本人や家族への意向の聞き取りをもとにプランを作成している。入居者の担当職員を中心にモニタリングを実施し、本人が何を望み、何が不足しているかなど検討し、課題解決に向けた目標設定を行っている。全職員が目標達成に向けて支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録を書きプランに沿って実施している。気付いた事があればその都度ミーティング等で話し合い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気がつきがあれば、ご本人様やご家族に尋ねている。希望などがあれば伝えられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の状況に合わせて地域の行事に参加したり、馴染みの場や地域のか阿多と交流を行い懐かしさや楽しみを感じて頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、ご本人様やご家族様が希望される医療機関で適切な医療受けられるよう支援している。	以前は母体医療機関を入居者の主治医としていたが、諸事情により現在は長崎川棚医療センターをホーム提携医としている。他科への受診については家族の意向を重視した受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護職員にその都度相談出来、必要に応じた医療を受けられるよう医療連携を密に行っており、記録し情報を共有できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間中は、入居者様の面会をこまめに行い状況を把握し、退院時は病状の経過など医療機関と連携し、ご本人やご家族とも話し合いを行い、退院後の計画を立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の支援は当ホームで出来る事を十分に説明し、ご本人様やご家族様とも話し合いながら経過と意向の確認を行っている。又、医療機関とも連携をとりながら適切なケアが出来る様支援に取り組んでいる。	ホームでは看取りについて豊富な知識や経験を持つ職員がおり、本人・家族が望む最期が迎えられよう、手厚い支援に取り組んでいる。看取り時期となった方から自宅に帰りたいとの要望があればできる限り実現できるよう職員や看護師同行で支援するなど、本人・家族・職員に心残りが生じないよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会にて、職員全員が技術や知識の向上に努めており、ミーティング等で対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署や、地域の消防団の協力のもと、様々な想定で訓練を行い、指導を頂いている。経験したことを反省し、見直したり、必要に応じた対策を検討している。必要品の検討も行い、定期的に補充をしている。	消防避難訓練の際、職員へ出火場所を知らせず行うことで臨場感のある訓練を実施している。記録には避難訓練の概要や消防署・消防団からの指導・反省点を記載するとともに、写真を添付や訓練の振り返りを行い次回訓練に繋げている。地域消防団の協力体制についても整備している。尚、有事の際の初期消火・通報・避難誘導についての職員の役割分担については今後検討する予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活習慣を理解・把握し、その人の想いを引き出せるような言葉かけや対応を行い、信頼関係を築ける様に心掛けている。	接遇マナーの研修に参加した職員は、学んだ内容を他の職員に報告することで情報共有を図っている。職員は居室が入居者にとって寛げる空間であることを理解しており、ノックや声掛けをしてから入室している。また、排泄時の言葉掛けや介助する際にも入居者の羞恥心に配慮した対応を心掛けた支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、ご本人様の思いや希望を引き出せるよう、可能な限りスタッフが支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の習慣を把握し、会話の中からご本人様の希望などを引き出してその人に合わせたペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服等を選んでもらいその人らしい身だしなみ(髪型・衣装・化粧)が出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事等、楽しめる食事や献立になる様に入居者様に尋ねたり調理の下準備等のお手伝いをお願いしている。誕生日には希望のメニューを提供したり、外食に出掛けたりしている。	献立は毎月職員が交代で作成している。職員は入居者へ食事の内容について希望を聞くほか、食材の差し入れがあればメニューを変更し新鮮なうちに季節の食材が口にできるよう工夫している。誕生日などには個別での外食支援も行っている。職員は入居者に食材の下ごしらえを依頼することで食に関しての関わりを持つことができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康状態を把握し、ご本人の好まれる水分や食事を取入れている。又、形状や食器、スプーン類の工夫を行い提供している。必要に応じて、トロミ剤も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた口腔ケアをしている。又、介助が必要な方にはうがい薬やジェルを使用し、口腔内を清潔に保てるように支援している。定期的に歯科受診をして、メンテナンスを受けてもらっている。その際、ケアの方法を指導受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの動作をみたり、時間誘導にてトイレへの声掛けを行っている。日中はなるべくパットの使用を減らしている。	普段リハビリパンツを使用している方について、夏の暑い日などには布パンツに変更し蒸れなどによる不快感を解消するなど、職員は入居者が気持ち良く過ごすにはどうしたら良いか考えながら支援に取り組んでいる。また、日頃からトイレへの声掛けや誘導による排泄の自立や尿取りパットの使用軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に乳製品を摂ってもらい、日中は運動への参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を設け、入る際は必ず声かけを行っている。親しい方同志で入浴を楽しめるよう支援したり、一對一の会話で本人様の思いを聞き出すこともある。	ホームでは毎日入浴ができるよう準備し、入居者の体調や気分に応じた入浴支援を心掛けている。職員は入居者にとって入浴が心地良いゆったりとした時間となるよう支援し、その時間にじっくりと話をすることで新しく知り得た情報をホーム全体で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせソファや畳で過ごして頂いている。日中は運動や家事などして頂き、夜間の安眠にも繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記入し、変更がある時は一人ひとりが把握できるよう申し送りを行っている。分からない場合は主治医に確認したり、薬剤師の方へ効能など尋ねることもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、洗濯物干し・たたみ等一人ひとりが出来る事をして頂いている。天気が良い日は外出をし、時にはお弁当を購入し馴染みの場所へ出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事は計画をたて、肌で感じられるようにその都度外出をしている。家族様に会える機会を提案して、相談・協力をお願いする事もある。	ホームでは季節の花見などの行事を計画するとともに、ドライブや外食、地域の高齢者カフェ・行事への参加などの外出支援を行っている。入居者が定期的に外出できるよう家族協力のもと個々に応じた外出支援に努め、自宅への帰宅や外泊などそれぞれに応じた支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはご本人様に買い物を楽しんで頂ける様財布を所持して頂き、支払いは支援している。又、お弁当の購入や外食なども計画し、お金を使う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等のハガキを準備し、書いて頂ける様支援している。書くことが困難な方は職員が代筆している。又、電話で会話できる方は話す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は敷地内を散歩したり、皆でベランダにて日光浴や歌・体操等を行っている。トイレや風呂場は案内札を下げている。ソファや畳の共用場は清潔や整頓に心掛け、心地よい空間作りを行っている。	ホーム共用スペースは入居者が移動する際の動線が確保されており、職員による日々の清掃やオゾンを使用した定期的な消毒により清潔に保たれている。また、入居者の身体状況に合わせた畳の間でゆっくりと過ごしてもらうなど、自宅の居間で寛いでいるような環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間や、助け合える入居者同士で楽しく過ごせるようにソファを利用したり、食堂の席の配置を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が以前から使用されていた物の配置や馴染みの物品を持ち込み、自分の居室であることが確認できるようにしている。習慣を考えた配置にも考慮しながら生活しやすいよう工夫している。	居室には入居者にとって馴染みの寝具や家具を配置し、その方らしい生活が継続できるよう工夫しており、各居室とも入居者一人ひとりの個性が窺える部屋となっている。職員は定期的にオゾンによる消毒を行い臭気対策に努めるとともに、毎朝入居者とともに清掃を行い、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の好みを活かし、それぞれの能力に合わせて安全・安心に生活が出来る様に支援している。又、出来る力を活かし、自立した生活に支援できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念とは別に、スタッフ全員で考えた介護理念もあり、目に付きやすい場所に掲げ皆で想いを共有して実践に繋げることが出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会・文化祭・献灯際等地域行事への参加、小中高生の実習の受け入れ、保育園児との交流の場も定期的に行っている。地域や馴染みの方との関係が途切れない様な活動が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中高生の実習時や見学者、外部や家族の方から質問を受ける際には認知症に対して理解しやすく、対応の仕方なども含め丁寧に説明するよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開催されており内容はスタッフミーティングや申し送り、スタッフ全員が報告を受け把握できている。検討・改善を必要とする内容については意見を出し合い実践に繋げることも出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他に、ホーム行事にも参加する機会もある等、ホームの現状について報告を行う場があり、把握してもらっている。介護やケアプランの相談にも応じてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し委員会で話し合い、ミーティングで報告し皆が身体拘束について考え理解している。定期的に見直したり拘束につながらない支援か検討したり、疑問に感じる時は都度相談し合っ拘束につながらないケアを日々心掛けて実践できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加してスタッフ全員にミーティングで報告を行い、ホーム内での虐待に繋がる場面がないか意見を出し合うことで未然に防ぐ事や職員の言動が虐待にならないようお互い注意するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに経験がなく、研修等に参加するなど学ぶ機会を設け、必要に応じて関係者と相談していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前にホーム内の見学等をして頂き、ホームの特徴など説明し納得してもらい、契約を交わしている。入居されてからも改定などに応じて説明・同意を得て疑問点も尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や知人の面会時に意見や要望を聞き、ミーティングや申し送り等で伝え、運営推進会議で報告しサービスの向上に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中に出た意見や気付き、要望など申し送りやミーティング時に検討し、全職員の意見も取り入れ改善出来たり、代表者や理事長にも相談出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭環境も配慮しながら、急な私用にもなるだけ対応出来る様な環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の適正を分析・把握しながらその能力が十分に発揮出来るように研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会を定期的に関き、情報の交換、悩み、疑問について意見を交換したり勉強会を行っている。他事業所との関わりを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問を行い、ご本人様やご家族様の要望や困っている事を聞き取り、安心・安全な生活を送って頂ける様に信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、ご家族様と本人様の想い、不安などを聞き取り、願いに添ったサービスを提供し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況で、ご本人・御家族の心身の状況や要望、意見を汲み、見極め適切なサービスの提供が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望・想いに耳を傾け、ご本人が介護される一方の立場ではなく、共に暮らしをする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報と要望や意見を伺いながら、ご家族様と職員で協力しあい、支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がこれまでの生活の中で築いてこられた馴染みの人や場との関係が疎遠にならないように、個別の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの関係を把握し、一人ひとりが孤立しない様に努め、居心地の良い生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、訪問したり電話いれたりして、関わりをもった支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを引き出しながら、意思疎通の難しい方は表情・しぐさなどから気持ちを汲みとり、必要に応じてご家族や馴染みの方に協力をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に以前の生活歴や環境を伺い記録し、スタッフ全員で把握に努めている。又、日々の会話の中でも新しい情報を得て追加しスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの気持ち、好みに合わせその人らしい生活が送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のモニタリングをミーティング時に話し合い、必要に応じてはご家族に協力して頂きその方に合ったケア方針を介護計画に反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づき・工夫を個人記録に記入し、又、ミーティング時に話し合いスタッフ間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況を把握し、様々なニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスを検討し、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域の行事等に参加したり、地域の方と触れ合い交流を行い、以前の生活を思い出したり楽しんで頂ける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が信頼されている地域の医者との関係を継続しつつ必要に応じて他の医療機関も受診し適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に適宜相談して、必要に応じた適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病気等が重度化した場合は、早い段階からご家族・ホーム側・主治医・看護師を含めて話し合い、ご家族の意向に沿った支援ができるようにスタッフ間でも情報交換しながら、チームで協力し取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が入居された後、高齢化や重度化が進む中、話し合いを重ね、お互いが納得しスタッフも想いを共有しケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な知識を習得する為、研修や勉強会・講習会を職員全員が参加できるように設け、訓練や技術が習得できるように実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜を問わず火災や自然災害に対応できる様、定期的に訓練を行っている。又、地域の消防団員の方達にも参加して頂き、協力体制を整え指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を尊重しその方の誇り、プライバシーを損なわないように対応接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様の思いや要求を聞いたり、自己主張ができるように働きかけて、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、その方の希望を取り入れ過ごしやすく支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服装にならない様、本人様に選んでもらったり、おしゃれで身だしなみも気を付け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立を考え、個人に合った食べやすい方法で提供し食事を、楽しむ時間を過ごして頂ける様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や1日のバランス、水分量を確認し、ご本人の食事や水分摂取方法も好まれる方法に応じ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助で口腔ケアを行い、清潔を保つよう支援している。定期的に歯科受診を行い、メンテナンスをもらいながら、ケアの方法も尋ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣や動作などをみてトイレでの排泄が出来る様声かけ・誘導支援を行っている。又、排泄時の姿勢の工夫や、日中はなるべく尿取パットやリハビリパンツ使用の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を共有・活用し、運動への参加を促す他、乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れたり、個々に応じた予防法に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の時間を設け、一人ひとりの入浴時間やタイミングに配慮し、適温でゆっくりと入って頂ける様支援している。又、ゆずや菖蒲湯等風習を大切にしたり、地域の足湯に出掛ける事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具・室温調節やその方にあつた時間に声掛け等を大切に、心地よい眠りにつける様支援している。又、日中に活動を行い、適度な運動を取り入れ、夜の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を分かりやすいよう記入し、変更時も全員が把握できるよう申し送り等を徹底し、経過なども記録として残し話し合いを行っている。又、分からない事は主治医へ確認し、把握・理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った作業や習字・生け花等、趣味の活動が出来る様支援を行っている。又、馴染みの場所やお店など外出を楽しまれる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に配慮し、ドライブや食事などの外出支援を行い、認知症カフェなど地域の行事にも参加している。季節を感じて頂ける様、定期的に外出を計画し、入居者様個人に合わせた外出支援も行っている。又、ご家族にも相談・協力をお願いする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する時などお金を持つことを支援し、ご本人が買いたい物を買う楽しみを持ち、自らお金を使うことができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望やお尋ねをして電話を掛け、話しをして頂いたり、間に入って、話しの橋渡しをしている。便りを季節ごとに写真入りで準備し、書くことが難しい方には代筆をして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮した環境を整え、清潔に居心地の良い場所での気の合う方々と楽しく過ごす時間・空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・テーブル席・ソファを置く等して、各々が居心地の良い場所でゆったりとした暮らしができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で安心して寛げる空間を作り、装飾物や写真など、馴染みの物を配置しご本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事や楽しめる事を見極め、目線に合わせた工夫をして安全に過ごせる様、日々確認している。		